

三十数年にわたり演奏

後進の育成と邦楽振興

釧路郷土芸術賞の特別賞を受け
る三谷キワさん



「来年は宮城道雄先生の二十七回忌になると思います。早いもので釧路で生田流宮城派の箏曲教授の看板を上げてから、三十五年経ち私も八十一歳になりました」と語る。

三谷さんは明治三十三年岩内町で生まれ、大正四年、十八歳で当時釧路病院の医師だった時夫さんと結婚し昭和十一年に満州へ渡つた。そのまま何事もなかったならば、今日の三谷さんはなかったであろう。しかし、二十年終戦、間もなく病いに倒れた夫の死、続いて二十一年に本州へ引き揚げという過酷な運命に打ちのめされた。「まるで乞食のような姿でたどりつき

振り返る。

釧路の浦見の妹の家を頼り、その家の一間を借りて箏曲教授の看板を掲げた。生きる道は十八年に宮城道雄先生の許に入門、勉強し直した琴しかなかった。

以来、四半世紀の間に大勢の弟子さんを養成するかたわら、二、十三年に北海道宮城会を発足させ初代会長をつとめた。二十五年には宗家を招いての演奏会。三十年には釧路市三曲協会の結成に走り回った。三十一年に十周年記念としてコーラスを入れた「日蓮」を公演した。折から宗家は演奏旅行の途中で事故死し、三谷さんは急いでプログラムを追悼演奏と訂正

お弟子運にも恵まれて鈴木順子さん、山下昌子さん、富田栄子さんなどが優秀な人ばかり育てている。三年置きくらいに開く演奏会や、毎年の三曲演奏会にも三谷さんのひたむきな情熱を継承して好評だ。「十一月十一日は夫の命日。この日の郷土芸術賞の知らせを受けました」と微笑した。釧路市富士見二。

箏曲

〈特別賞〉

三谷キワさん

まだまだ健在だ。